



小国高校同窓会報

発行所

山形県西置賜郡小国町

大字岩井沢621番地

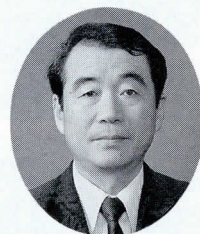
小国高等学校内

電話 (62)2054

小国高等学校同窓会
事務局

「ベにばな国体」

山形県山岳競技少年の部特別強化指定校となり、
その期待を担い練習に励む本校山岳競技選手



五〇〇〇名同窓生諸君へ

会長 佐藤 好美

我が小国高校同窓会は、三月母校を卒業し入会した新会員を入れて、約五千名を数えるまでになりました。この五千名の諸氏が地元小国町は勿論のこと、東京及びその周辺で、その他、全国各地で御活躍のこと誠に御同慶に存じます。

今、小国町では「ベにばな国体・山岳競技」の会場として、町民総ぐるみの協力態勢を敷こうと懸命になっております。母校小国高校に於いても、現役・OBに県代表の有力選手を多数擁していることから、「天下に小国高校あり」の旗を掲げるには絶好の機会として、学校をあげて努力されているところです。

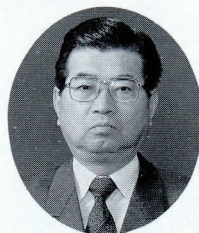
同窓会としても何らかの形で支援しなければならぬと存じておりますが、残念ながら、組織が整備されておらず、力が弱いのです。今までも、何か母校の為に援助したいと思っても、先達高校のような組織がないので、思うように協力出来ず、その場しのぎの対応になっていました。「何とか早急に支部づくりをして、他校並の活動が出来る態勢を作りたい」

と事務局を中心に熱のこもった討論をし、行動を起して参りました。その結果、小国町内を体協の地区割りにならい、十一地区に分けて支部を作り、夫々支部長も決り、形としては動ける態勢になりました。しかし動くかどうかは今後各支部の支部役員の方々の「母校に寄せる熱い思い」と同窓会員諸氏のそれに協力する誠意にかかっていると存じます。

東京では既に小嶋豊郎弁護士を会長とする「小国高校、在京同窓会」が実績をあげておられます。又、山形県警内にも「小国高校同窓生の集い」が生れようとしていて聞いております。

母校の発展を願い、後輩を激励し、育てるにはまず私共が母校の動きに関心を寄せることから始めなければなりません。そして、同窓会の会合には是非出席して力になって下さい。近々中に「小国高を語る会(仮称)」が発足しようとしています。同窓会の真価を問われるときがきたのです。諸氏の尚一層の御協力を心からお願い申し上げます。

国体の成功が課題



校長 豊島圭吾

同窓会報の発刊に当たり、一言御挨拶申し上げます。本校卒業生数は、平成

四年三月で四九七七名を教え、今年度卒業生をもって五千名の大台を超えることになりま。卒業生の皆様には、地元をはじめ、広く県外にも進出し、それぞれ御活躍のこと御同慶にたえません。

本校は、昭和二十三年に定時制高校として発足、以後いくつかの変遷を経ながら、昭和四十七年からは全日制普通科のみ的高校となり今日に至っております。

生徒数は、昭和三十年代には一学年二二〇名という時期もありましたが、今では一学年の定員が一三五名。それでも町内の児童生徒数の減少などにより、今年度は三年生が辛じて三学級、一・二年は二学級となり、在籍数は二四七名です。校舎は昭和六十三年の創立四十周年を機に体育館と理科・家庭科棟の新築が成りました。残る課題は、手狭な第二校舎（生徒教室棟）と図書館の改築です。

私は、平成三年四月に学力向上とべにばな国体山岳競技選手の強化を使命として本校に就任しましたが、今年度は何と

げての課題です。

生徒の95%以上が小国町在住者で、町唯一の県立高校ということで、町当局からも支援をいただき、町民の暖い目と心に支えられている高校といえます。生徒は純朴・素直であり、有為な社会人として育っていく素養をもっています。部活動では陸上競技・スキーなどかつての盛んだった頃に迫るきざしが見えます。数少ない球技の部でも熱心に活動をし、心身の鍛錬に励んでおります。体育祭や文化祭などの行事、学校林や花壇の作業にも小人数ながら良く頑張っています。今年度も、学習と部活動を両輪として、心身ともに健全な高校生活を目指し、小規模校の良さを生かして、生徒一人ひとりにゆきとどいた指導を徹底するよう、教職員一同張り切っております。同窓生の皆様にはどうぞ後輩に暖い激励、支援をお願いいたします。



町内に十一支部を結成

今までに在京同窓生が、独自の活動として在京同窓会を組織し活動していましたが、このたび町内にも十一支部の結成がなされ、各支部長を中心に新たな活動が期待されています。各支部・支部長は、次の方々です。

在京同窓会	長
沖庭支部	小嶋豊郎（昭25年度卒）
北部支部	塚原猛男（昭27年度卒）
北部支部	小池昭二（昭26年度卒）
北東部支部	安部健一（昭25年度卒）
北東部東支部	舟山隆司（昭30年度卒）
南部支部	佐藤祐一（昭31年度卒）
白沼支部	伊藤紘一（昭34年度卒）
東部支部	高井吉男（昭30年度卒）
東南部支部	米野義一（昭35年度卒）
小坂町支部	渡部英雄（昭29年度卒）
町岩西支部	柴田重博（昭30年度卒）
町岩東支部	後藤輝雄（昭31年度卒）



平成3年度小国高校同窓会入会式に、会長・副会長・各支部長が、同窓会役員として参列しました。

同窓会の発展と母校の発展を願う

在京同窓会 伊藤 康之

同窓の皆様、お元気ですか。何かと忙しい日々を送られておられることと存じます。この度、支部が地元にも生れたこと、伺い仲間が一つ増え、同窓の組織が拡大することになり、ご同慶の至りに存じます。

今や母校は昭和二十四年度第一回卒業生より数多くの人材を輩出し、教職員の皆様の限りない情熱と尽力により、各界に囑望される学校「小国高等学校文化」を形成、根着かせるまでになったと思います。同窓会の発展と母校の発展が一緒であるという認識に立ち、ますますその関係を密にし、活動を充実したいものであります。

在京同窓会は、東京周辺在住の会員（小国高校で学んだ方）の親睦と交流を主目的に昭和六十二年七月二十日に結成・発足しました。毎年一回の総会・懇親会を軸に、昨年七月には六回目の総会を開くに至って、着実な発展をして参りました。同世代のつながりを横糸に、先輩・後輩のつながりを縦糸に織りなす懇親会は、母校で、小国郷で過ごした幾年月を昨日のように思い出されます。

東京やその近県にはおよそ一四〇〇人の会員が在住していると推察されます。まだ参加されていない会員のうち、一人でも多くの方が私たちの仲間として、会員相互の親睦と母校の発展に寄与することが出来たらと願うものであります。恒例の総会には約三千四十人出席され、盛会に和やかな集いを重ねています。もともとと多人数の参加が望ましいが、長い目で見守っていただきたいと思っています。

平成 3 年度 同窓会会計決算書

収入の部

(単位：円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	未済額	摘 要
会 費	415,000	0	415,000	415,000	0	卒業生入会金 5,000円×83名
繰越金	1,102,492	0	1,102,492	1,102,492	0	前年度繰越金
雑収入	2,293	6,738	9,031	9,031	0	預金利息等
合 計	1,519,785	6,738	1,526,523	1,526,523	0	

支出の部

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	残 額	摘 要
需 要 費	50,000	0	50,000	16,400	33,600	用紙・卒業アルバム等
会 議 費	100,000	20,000	120,000	112,527	7,473	各種役員会諸経費等
通 信 費	50,000	0	50,000	14,615	35,385	ハガキ・切手・電話
印 刷 費	130,000	0	130,000	0	130,000	会報・その他
使用料貸借料	5,000	0	5,000	0	5,000	
事務室維持費	100,000	0	100,000	43,510	56,490	同窓会事務室維持諸経費
慶 弔 費	60,000	0	60,000	13,875	46,125	
教育助成費	30,000	0	30,000	24,000	6,000	卒業記念品等
支部助成	330,000	0	330,000	20,000	310,000	
特別事業基金	558,538	0	558,538	558,538	0	
予 備 費	106,247	△13,262	92,985	55,000	37,985	
合 計	1,519,785	6,738	1,526,523	858,465	668,058	

収入決算額 支出決算額
1,526,523 - 858,465 = 668,058 (平成 4 年度へ繰越)

平成 3 年度 同窓会特別事業基金会計決算書

収入の部

(単位：円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	未済額	摘 要
特別事業基金	558,538	0	558,538	558,538	0	※同窓会会計より 同窓会特別会計より
	941,462		941,462	941,462		
雑収入	40,000	0	40,000	41,538	△ 1,538	預金利息等
合 計	1,540,000	0	1,540,000	1,541,538	△ 1,538	

支出の部

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	残 額	摘 要
積 立 金	1,540,000	0	1,540,000	1,541,538	△ 1,538	
合 計	1,540,000	0	1,540,000	1,541,538	△ 1,538	

事務局からお願い

住所変更のおりには、
新住所を事務局までお
知らせ下さい。

同窓会総会のお知らせ

同窓生の皆様には益々ご健勝のこと
とご推察申し上げます。

平成 4 年度の同窓会総会を開催致し
ますので、多数のご出席をお待ち申し
上げます。

期 日 ■平成 4 年 10 月 31 日 (土)

午後 1 時半より

場 所 ■小国高等学校体育館

尚、当日は文化祭開催中でもありますの
で、後輩の活躍ぶりを是非ご覧いただきた
いと存じます。

金太郎 Hotline



小国高校卒業 山遊亭
金太郎が真打に

小国高卒の落語家、山遊亭金太郎 (本
名・佐藤敏弘) さん (三三) が真打に昇
進、そのお披露目としおぐに開発総合セ
ンターで「真打ち昇進披露興行」が開か
れ同窓生より花束の贈呈が行なわれた。
金太郎さんは、小国高校在学中、東京

で落語を聞く機会があり、その魅力にと
りつかれた。卒業後、落語家を志し上京、
練馬の陸上自衛隊に二年間勤務し、昭和
五十三年、桂小南師匠のもとに入門を許
された。前座名は桂南てん。東北出身者
の言葉のハンデを克服、苦学の末、昭和
五十七年、二つ目昇進。師匠の前名、山
遊亭金太郎を名乗った。おはこは「湯屋
番」など若だんな物を得意とし、母校小
国高校の文化祭にも出演し、在校生に、
自分の生い立ち、東京に上京しての苦学
した時の様子等を、おもしろ、おかしく
生徒に話し、爆笑させ文化祭を盛りあげ
ていた。

今、母校では……

体育関係

三山岳部

小国町で第47回国民体育大会山岳競技の開催が決定した直後、小国高校に山岳部が誕生しました。最初は同好会からスタートし、普通の山行を行っていました。しかし、山岳競技とは荷物を背負って斜面をより早く登らなければならないという実に過酷な競技なのです。楽しみ登山の目的で入部した生徒たちにとってはかなりの負担で、残念ながら有望な選手は育ちませんでした。そこで競技の類似性の強いクロスカントリーと長距離(陸上)の選手たちに力を貸していただくことにしました。本業の部とのかけもちで本当に大へんでしたが、選手たちは小国高校



れました。その体制で始めて四年程経った昨年、男子三人女子三人の特別強化指定選手を誕生させることができました。それまでの過程の中で、小国高校の卒業生の方々が、是非小国高校から選手を送り出したいということで様々な面から御援助をいただきました。本当にありがとうございました。

いよいよ残り百余日。選手たちは日夜練習に励んでおります。同じ学び舎で学んだ先輩方の励ましが何よりも彼らを勇気づけてくれるものと確信します。どうか本番まで御支援の程よろしくお願い致します。

生徒会・教育活動

本校は、普通科単独の高校となつて久しいが、現在の生徒数は男子一一五名、女子一三一名計二四六名。一・二年二クラス、三年のみ三クラス計七学級となっている。これまで幾度か教育課程を改定する等して生徒にあった学習指導を行ってきた。現在も新しい教育課程の編成に取り組み、魅力ある学校を目指しさまざまな模索している。その一つとしてパソコン・ワープロ(各二十三台)を導入し教科指導の中に取り入れ、時代の先端的教育を行っている所である。また一方、職員・保護者一体となつて本校の特色作りに取り組んでいる。

生徒の課外活動を紹介すると、昨年は

生徒会行事の一つとして、「小国夏まつり民踊流し」に全校生徒で参加し祭りを盛りあげ、また部活動に於ても、運動部では山岳部は国体優勝を目標に、スキークロカン部のように毎年インターハイ出場を果し、文化部に於いても美術部では地区、県で優秀賞を得るなど目覚ましい活躍をしている。団体競技に於いても女子バレー部は、今春季置賜大会で準優勝を勝ち取り、小規模ながらその目覚ましい活躍ぶりが閉会式の中で称賛されるなど、他の部に於てもあと一歩という善戦をした。今後の活躍が期待されるところである。

35年来の制服を改定

昭和三十三年に女子の制服が改定され、以来三十五年間もの長期にわたり小国高校女子生徒の制服として親しまれてきた



したが、平成元年度、生徒会リーダー研修会で、女子のネクタイを変えてはどうかという意見が出され、さまざまな角度から検討されたが、男女の制服全体を見なおしていくことになった。二年度に入り「制服改定検討委員会」を発足させ、他校には例をみないPTA、同窓会代表をも委員に委嘱し、生徒代表二名、職員五名で組織された。生徒達が喜んで着るような制服を導入したいという方向が了承され、アンケート等を実施し、制服改定の基本方向を固め、職員会議でこの方針が了承されたが、フォーマルウェアとしてのネクタイ以外にも数本のネクタイを指定し、選択の幅を広げ平成三年入学生より導入することが決定された。

▽新制服になって「街の声」親の声

○モスグリーンの色合いが良い。
○街の中が明るくなった。
○米沢市内の高校生の制服よりセンスが良い。

○都会的な感じがし、特に女子の顔が引立つようだ。
○男子は社会人と区別のつかないことがある。

○小国高校の今までのイメージを変えた。小国の町、又現代にマッチしている。
○オシャレな感じがするが前の制服にも愛着を感じ少し淋しい。制服に負けない内面的にも充実した小国高生を望む。

広報委員

仁科 光悦・高橋ひで子
駒沢 賢一